

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371300720
法人名	株式会社ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし新守山
訪問調査日	平成20年11月14日
評価確定日	平成20年12月9日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300720		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホーム みおつくし新守山		
所在地	名古屋市守山区新守西2032 (電話) 052-794-1746		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(平成20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年2月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要(平成20年10月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	70 歳	最高	92 歳
協力医療機関名	種田クリニック・旭労災病院・北医療生協北病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人では3つのグループホームのほか、小規模多機能型居宅介護事業を来年1月に立ち上げるため、現在準備中である。ホームは閑静な住宅地域にあり、玄関には季節の花が置かれている。玄関やフロアの入口は施錠されておらず、職員は常に入居者の行動に気を配っている。広いリビングにはソファがあり、大きな窓からは自然の陽光を取り込み、明るい雰囲気をつくりだしている。また、加湿器が置かれ健康への配慮がされている。壁面にはボランティアと踊ったり、野外での行事等の写真が飾られ、楽しんでいる様子がうかがえる。また、小型犬が飼われ入居者や職員の癒しになっている。ホームの方針として認知症の人や、その家族に対して深い理解を持ってケアに取り組み、運営に反映させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について、全職員が参加のカンファレンスで話し合いを行い、優先順位を決めて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を各自で行い、難しいところは職員間で話し合いながら取り組んでいる。これにより、日常業務の見直しや目標について、改めて考えとともに、評価の意義や活用方法を理解する機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月ごとに開催し、メンバーは町内会長、地区民生委員、ホーム契約医師、家族代表、ホーム代表で構成されている。議題はホームの運営状況、活動報告と計画、外部評価についての説明などを行っている。また、メンバーから地域行事への参加、協力の提案があり、以降のホームの運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム行事への家族の参加は、入居者の年齢や介護度などの状況から、限られており、その限られた家族の中で、家族同士、職員と家族が話し合う機会となっているが、家族会の設立状況にない。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの苦情、要望などは、来訪時に直接、管理者や運営者と話し合いがされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており地域の情報を得たり、ホームの行事案内をして、参加の呼びかけを行っている。また、地域の行事にホームの施設を提供したり、ボランティアの訪問を受けるなど、地域との交流を深めることによって、日々の生活に変化を持たせ、潤いのある暮らしができるよう取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人で「やすらぎ」を共通の理念としており、ホーム独自の理念として「地域社会とのつながりの中で、安全で家庭的な環境のよい、健康で明るい生活の支援」を掲げている。また、自分自身あるいは家族に入居の必要が生じた場合、入りたい、入居させたいと思うようなホームづくりを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はフロアの見やすい所に掲示しており、職員は常に意識し確認することができる。毎月のカンファレンス時に、理念について管理者は職員と話し合いを行っており、職員は理念をケアの基本として位置づけて、日々のケアに取り組んでいる。また、管理者は理念について、職員とさらに深く話し合いを行い、ケアに役立てたいと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅地域内に位置し、管理者は地元住民との関わりも多く、町内会に加入して組長を務めている。回覧で地域の情報を得たり、ホームの行事案内、参加の呼びかけを行っている。また、ホームの施設を町内会行事やボランティアの人達に提供して、地域の人に遊びに来てもらうことで、入居者や職員とのつながりができ、地域との交流が図られ、今後さらに広げたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については過去に経験しており、管理者から職員に深くは説明していないが、全職員は前向きに取り組み、難しい項目など職員同士で話し合い、意識合わせをしている。これによって、日常業務の見直しや、目指している（自分が家族を入りたい、入りたい）ホームづくりについて改めて考える機会となったとの声があり、評価の意義や活用方法を理解している。今回の外部評価や前回の評価の改善課題について、毎月ユニットごとの全員参加のカンファレンスで話し合い、優先順位を決め取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月1度開催し、メンバーは町内会長、地区民生委員、ホーム契約医師、家族代、ホーム代表で構成されている。議題はホーム運営状況、活動報告と計画、外部評価とその結果についてや、参加者から地域行事への参加、協力などの話があり会議として了承し、ホームの施設を地域行事に提供するなどホームの運営に活かしている。職員へは、カンファレンス時に報告し話し合いを行っている。家族へは来訪時に話しをしたり文書を送付して情報を共有するよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政への積極的な情報提供は行っていないが、市の担当窓口へは事務連絡などで出向た時に情報交換に努めている。また、入居者の財政支援担当窓口とは、情報の交換を図ると共に協働関係にある。管理者は地域包括支援センター主催の家族教室で、認知症についての講師を受託しており、ホームでも教室の開催をしたいと考えている。また、専門学校生の実習を受け入れるなど、行政との連携に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りとして季節ごとに「ふれあい通信」を発行しており、職員が書いた入居者一人ひとりのホームでの近況や暮らしぶりを行事の写真と共に、また、行事への参加の呼びかけ、ホームからの連絡や願いを記載して家族へ送付している。入居者の状態などに変化の生じた場合は、その都度連絡をして協力を仰いでいる。家族の来訪時には、入居者とのふれあいの時間に配慮しながら、管理者や運営者は話を聞いたり健康状態などの様子を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の年齢が高く、介護度も比較的重度の人が多く入居しており、行事への参加も少なく、家族会を設立する状況にない。気軽に意見を書いてもらえるよう、玄関に意見箱を設置しているが、家族は来訪時に、直接管理者や運営者などと話し合うことが多く、家族からの要望や意見を聞く機会となっている。相談、苦情機関として、ホーム担当のほか公的機関の連絡先を重要事項で説明している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は法人内で行われている。法人内の合同の行事やグループホーム間で多くの交流の機会があり、入居者と職員は顔馴染みの関係が築かれている。また、比較的多くの職員が常勤であり、退職者も少なく、異動による入居者へのダメージは軽減されている。入居者へは、職員本人から伝えられ、家族へは「ふれあい通信」や運営推進会議で伝えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に内部研修を行い、ホームが掲げる理念、個人情報保護などの関係法令について説明している。外部研修については職員に情報を提供し、参加できるよう勤務体制を調節して環境づくりに配慮している。参加者は研修の結果をカンファレンスで報告して全職員で情報を共有できるようにしている。また、資格取得については、有資格者優遇制度があり、ホームとして積極的に応援して職員の質の確保、向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県と名古屋市の認知症グループホーム協議会に加入し、協議会の情報は入手しており、内容によって参加している。こうした機会をとらえ同業者との交流を深め、情報の交換に取り組んでいる。また、法人の運営者で構成する会が年2~3回開催され、日々の業務に関する情報の交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時点からアセスメントをはじめ、本人や家族と面談を行い、思いや意向の把握に努めている。利用者の希望による短期入居の利用などを行うことで、ホームに馴染み安心し納得して入居できるよう配慮している。なお、期間は一人ひとりの様子をみながら最大30日としている。また、8月から共用スペースを活用して少人数を通所介護で受け入れ、スムーズに環境に慣れるよう取り組んでおり、現在3名が利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の年齢、介護度が進む状況から、できることが減少する中で、少しでも現状を維持する事に努め、好きなこと、やれることを一緒にやり支え合う関係づくりに努めている。食事作りで調理の方法など教えてもらったり、芋ほりや野菜と一緒に収穫して、それが食材として利用され食卓にのぼり、話題の中心になっている。また、夜勤時など、入居者と話しをして人生の先輩としてのアドバイスを受けるなど、入居者と良好な関係づくりがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向にそったその人らしい生活ができるよう、職員は入居者の立場になって、全体をとらえることを心がけて気づいたことを申し送りノートに記入し、毎月開催のカンファレンスで話し合い、情報を共有するよう努めている。管理者と職員は入居者一人ひとりの行為に“原因のない行為はない”を前提に、問題行為の奥にある思いを汲み取り、入居者の意向の把握に努め、本人本位のケアに取り組んでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員一人ひとりが現場で感じていること、現状を職員全員が参加して毎月開催されるカンファレンスなどで出し合い、家族からの聞き取り、日々の介護記録等も参照して意見交換している。話し合った内容を細かく記録し、計画作成担当者が介護計画に反映している。今後は出来上がった介護計画を再度、現場職員に見てもらいさらに精度の高いものにしたいと考えている。家族には面会時に説明し意向を聞き、同意をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には6カ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。カンファレンスでの意見を記録する個人記録様式を3カ月分づつ書けるように変更することで本人の様子が把握しやすくなり、変化があれば臨機応変に介護計画を見直し、入居者の現状に即した計画となるようにしている。新たな変化が見られない場合でも見直しの重要性を理解し、全く変化がないことはあり得ないので何か小さな変化でも気づき見つける努力をして介護計画に盛り込み継続することで、職員は対応方法を工夫している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算をとり、訪問看護ステーションと契約している。入院時には見舞いに出かけ主治医と連携をとり状態により居室の確保、早期退院に向け支援し、長期化する場合には病院と連携してその後の相談援助に応じている。本人と家族の状況の変化や要望には柔軟に対応している。空き居室があれば短期入居にも応じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>数カ月前に主治医が「種田クリニック」に変わり通常は月2回の往診だが、現在は毎週往診があり24時間対応である。基本的には適切な受療に向け入居時に全員ホームの主治医に変更してもらい、専門医療が必要な場合はその他の病院への通院援助をしている。看護師は週に1回健康管理支援にホームを訪れ、歯科医は都度通院している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における対応にかかわる指針」を作成している。入居時に家族と話し合い急変時の対応について延命治療の是非を書面で確認し押印してもらっている。近況報告にて常に家族との通信を心がけている。今後の変化に備えて主治医や訪問看護師と連携しながら家族と繰り返し話し合い、段階に応じた方針を全員で共有していきたいと考えている。また、職員の教育研修の必要性も感じている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の扱いについては入居時に説明し同意書をとっている。職員への守秘義務は書面に押印し徹底している。全職員が入居者のプライバシーを守る対応に心がけ入浴や排泄介助の際も誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。管理者は“何か不都合が生じた時には入居者を責めず介護方法の見直しを”と職員に話している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の状態や生活リズムに合わせるを基本にしており、起床の声かけはするが、無理に起こすことはしない。また、早起きの入居者もあり、朝食はそれぞれの時間に合わせて摂れるように配慮している。現在、喫煙者はいないが防火管理上禁煙をお願いしている。家族の来訪時には、外食をしたり、正月やお盆会などには外泊する入居者もあり、本人の望む生活、過ごし方ができるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は能力にあわせ食材を切ったり、盛り付け、配膳、後片付けの手伝いを行っている。献立は食材を見て、入居者の好みを取り入れながら職員が考えている。祝い事、行事の際体調に合わせてアルコールなど嗜好品の支援や、きざみ食、ミキサー食など本人の状態に合わせた形態で食事を提供している。誕生日ケーキ、おはぎなど手作りおやつづくりも行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回ぐらいのペースで入浴しており、夏場はシャワー浴も実施し、入居者の希望にはできる限り沿うようにしている。安全確保の面から異性介助も含め必ずマンツーマンで対応している。拒まれる方には、「髪の毛をきれいにしましょう」とやさしく声をかけ、対応など工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力や生活歴を活かして好きなこと、楽しめること(掃除機かけ、洗濯物干し、たたみ、野菜のきざみ、皮むきなど)に参加し張り合いを持って日々過ごせるよう支援している。屋外でおやつを食べ太陽の光を浴びたり、そうめん流しパースディをしたり、畑では季節毎に野菜が収穫できる。10月27日にはグループ合同で吉根ホーム内にて芋ほり、柿狩り、豚汁会を行ない秋の味覚を楽しんだ。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には一人ひとりのペースや状態に合わせて長短のコースを選択しながら積極的に戸外での散歩の支援をしている。買い物など職員が外出する際は可能な限り入居者を同行して気分転換を図っている。外食に出かけて好みの食事をしたり、時にはお弁当を持参して車で小幡緑地、定光寺、瀬戸の岩屋堂、二子山古墳、名城公園などへのドライブでストレスの発散、五感刺激を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中、鍵をかけない自由な施設を実施している。夜間9時過ぎと安全確保のためまれに日中でもやむを得ず施錠する場合もある。1階、2階フロアの入り口扉にドアチャイムをつけ入居者の動きを察知できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の指導のもと火災、防災訓練を年1回実施し、毎月のカンファレンス時に職員や入居者も参加し避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を行なっている。防火防災計画書を作成し消防署、町内会に提出し、実際に近所での火災時に援助を受け地域との協力体制は確立されている。また、家族へは緊急時限定のお願いや連絡先の優先順位の決定などを依頼している。飲料水、米、缶詰等を備蓄している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎月の体重測定や主治医の血液検査の結果をもとにバランスの良い食事に心がけている。食事摂取量の記録はあるが、1日の総カロリー量や水分量まで把握されておらず、栄養バランスやカロリー摂取に対して栄養士の関与もない。便秘対策としてなるべく運動してもらい、野菜中心の食事に努めている。現在塩分、糖分などの食事制限のある方はいない。</p>		<p>定期的に地域の栄養士や保健士などに専門的な観点からアドバイスをもらいながら、栄養バランスや摂取カロリーにも考慮したメニューの工夫を検討されたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関スペースには赤色で「みおつくし」と書いた看板が飾られている。共用スペースは広く、ゆったりしたソファ、テレビ、入居者と職員と一緒に食事できる大きな食卓が置かれ、広い窓から光が差し込み明るい。床は段差がなく手すりも完備され、壁には季節に合った貼り絵作品や手作りのカレンダー、行事の写真が飾ってある。加湿器や空気を攪拌できるよう扇風機を壁に設置するなど温湿度管理にも気配りしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、火気を伴う危険物や部屋での閉じこもり防止のためテレビ、ラジオの持ち込みは控えてもらっている。使い慣れた家具類等を持ってきてもらい、安全に注意いしながら使いやすく配置し居心地よく過ごせるよう支援している。一人ひとりの状態を考慮し扉をのれんに換えたり、香をたかれる方もある。扉を開け共用空間から冷暖気を送って温度調整し、10月から3月まで夜間の暖房に電気毛布を使用していたが皮膚の乾燥を考えて湯たんぽの使用を考えている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。